

各農業委員会で「地区連」発足

委員の目線で地域の課題議論 現地活動のベースキャンプに

府内の農業委員会で委員の現地活動の拠点(ベースキャンプ)となる「地区連絡会議」(＝地区連)の発足が相次いでいる。

地区連は、地区ごとに異なる課題に対応し、委員一人一人が現地で取り組む具体的な活動内容を気づける場とする。活動の中で生じた問題について委員同士で相談したり、情報

交換をする場だ。地区連の持ち方や様子は地域によってマチマチだ。宮津市や伊根町では、昨年の夏に行われた遊休農地調査の結果を地域に持ち帰り、地区連で今後の活動を検討している。

宮津市に九つある地区連の一つ、「養老地区会議」では市が奨励するオリーブ栽培で遊休農地の発生防止



舞鶴市西地区の地区会議。委員が集落で懸案になっている課題を持ち寄り、農村移住対策の推進などが検討されている。

「女性の意見」施策につなげよう

女性委員の会 総会で活動計画を決定

「きょうと女性農業委員・推進委員の会」(乾清絵 会長)は2月22日、京都市の重点活動として、府内6



ブロックで「女性農業者との意見交換会」を開催し、女性農業者の声を集めて施策に反映をめざすことを決めた。

また、「会」の活動を対外的にアピールするため、来月以降、全国農業新聞「京都版」に女性委員の記事を毎月載せることを決めた。

総会後の研修交流会では「農村への新規就農者の受け入れ」をテーマに意見交換(写真)。体験実習の受け入れ、研修中の支那指導員

・解消につなげる方法について話し合われている。また伊根町の朝妻、本庄、筒川地区では遊休農地だけでなく、将来、遊休化が懸念される保全管理田について、委員らが所有者の状況や意向を聴き取ることを決めた。

一昨年、府内に先駆けて発足した京丹後市の「久美浜地域会議」では、委員らが農業法人や担い手農家に呼びかけ、すでに「久美浜ネットワーク会議」が作られている。担い手の急な離農など、不測の事態があったときの対応や作付け地の交換などについて検討する場だ。

都市地域の長岡京市でも

五感で産地を当てる

緑茶発祥の地で茶香服大会

宇治田原町

「日本緑茶発祥の地」宇治田原町で4日、「全国茶香服(ちやかぶき)大会」が開催された。京都府南部の12市町村で行われている「お茶の京都博」イベントの一つとして開かれたもので、全国から参加者を募る大会は国内初。

茶香服は視覚や味覚だけでなく、五感を駆使して、



大会は、5種類のお茶を飲み比べる5種5煎といわれる競技方式で行われ、海外も含め、全国から集まった145人の参加者が、産地の異なる玉露と煎茶を当てるように挑戦した。

会場では、世代や国籍を越えて、参加者が力を合わせて、お茶の色や香り、味を確かめる姿が見られるなど、終始和やかな空気に包まれていた。

(宇治田原町 農業委員会)

香りや味など所感を書きとめたり、感想を述べ合うなどして正解を探る参加者

今月二つの地区連が発足。初会合では、荒廃竹林や生産緑地制度の改正をめぐる対応など、地域特有の課題が議題となった。

一昨年改正された農業委員会法では、農業委員会の新たな法令業務として、担い手への農地の集積・集約▽遊休農地の発生防止・解消▽農業への新規参入の促進の三つが掲げられているが、即、成果を出していくことが困難な地域が多いのが実態だ。

まず、地域で解決すべき優先課題を関係委員全員が共有し、できることから現地活動を始めることが重要であり、これらの取り組みを農業会議の現地推進担当が支えることとしている。

当面、地区連活動の実践が府内農業委員会組織の最大のテーマであり、この取り組みが果たす役割は極めて大きいといえる。

府農業会議と農業総合支援センター
合併契約を決議

し、今年7月1日を効力発生日とする合併契約の締結を決議した。

合併契約は、両法人の協



新会長
笠置町農業委員
植田

和束町 笠井雄至さん



城陽市 高井宏和さん